

教職教育センター



専任教員が担当する科目では、上の写真のように、毎時間グループ協議や全体での協議等を行い、現場で求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業のモデルを示す。



教職科目の授業をする坂田センター長



総合科学部・理工学部・医学部の学生が集う。



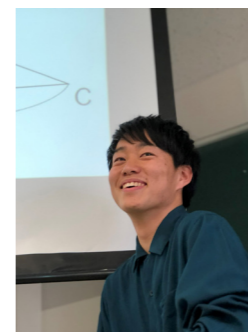
遠隔授業で医学部の学生が参加する授業



講座で学生に話す中川副センター長



講座で学生が行う模擬授業



笑顔で模擬授業をする学生



講座で教員志望動機を語り合う。



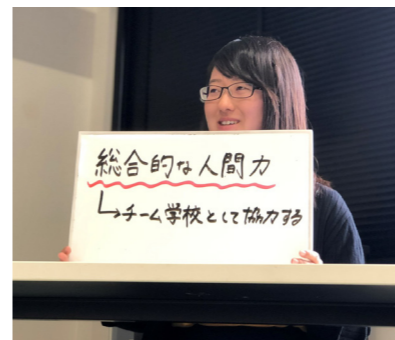
講座でのグループ協議



センターでは授業技術向上のための動画を作成。学生はそれを見て学ぶ。



講座における集団討議



専任教員2名は、教職科目の授業以外に「教員養成講座」を開講し、教員として資質・能力を高めるとともに、採用試験合格を目指して、集団討議・面接、小論文、模擬授業、個人面接等の指導を行っている。

徳島大学は、総合科学部社会総合科学科、理工学部理工学科、医学部保健学科に教職課程を有し、毎年110名程の学生が中学校教諭、高等学校教諭、養護教諭の一種免許状を取得している（うち30名程は特例による高等学校教諭（工業）の免許状取得）。また、大学院先端技術科学教育部に高等学校教諭専修免許（工業）、大学院保健科学教育部に養護教諭専修免許の教職課程を有しており、毎年5-10名程の学生が専修免許状を取得している。

教職教育センターは、これらの教職課程の維持及び充実を図るとともに、学内外の教育関連機関等と連携・協同し、教員養成及び現職教員研修の質の向上を図ることを目的として、2016（平成28）年4月、設置された。

教員養成について

教育職員免許法施行規則の改正に伴う、教職課程における「学びの軌跡の集大成」としての「教職実践演習」の2013（平成25）年度開設に向け、改組前の総合科学部において、2010（平成22）年、教職経験者である大宮俊恵氏を准教授として採用した。これは、教職課程の維持及び充実を図るとともに、教職経験者を「教職実践演習」指導教員に含めるという文部科学省の求めに応じたものであった。さらに2012（平成24）年、教職経験者である坂田大輔氏（現教職教育センター教授、センター長）を准教授として採用し、この2名を中心に教員養成体制の充実を図った。

その結果、総合科学部では、教職経験者2名体制となって以降、2012（平成24）年に11名（のべ13名）、翌年も9名（のべ10名）、2015（平成27）年には最多の14名（のべ15名）と、毎年10名前後の現役合格者を輩出し、現在に至っている。

また、養護教諭についても、教職課程が医学部保健学科に設置されて以降、さらに維持及び充実が図られ、初めての教員採用試験となった2011（平成23）年から毎年2名前後、2014（平成26）年には最多の7名の現役合格者を輩出し、現在に至っている。

センター設置の経緯について

全学的な組織として教職教育専門委員会が存在していたが、2009（平成21）年の実地調査以降、文部科学省からは全学センター的な役割を果たす部局の設置が求められていた。また、2016（平成28）年度の常三島地区の学部改組により、数学と理科の課程が理工学科に設置されたことに伴い、教職課程を有する学部が3つとなった。これらの理由から、専任教員を配置し、全学的な視野に立って教職課程の維持及び充実を図ることが必要となった。そこで、高石理事をセンター長、坂田、多田（大宮俊恵氏の後任）2名を専任教員として、常三島地区の学部改組に合わせる形で、教職教育センターが設置されることになり、現在は坂田（教授、センター長）、中川（多田氏の後任、准教授、副センター長）を中心に業務を行っている。

センター業務について

- センターでは、次の業務を行っている。
- 教職課程の編成及び方針に関すること。
- 教員免許状更新講習の企画及び実施に関すること。
- 教職課程及び講習に関し、他大学及び教育委員会等との情報交換及び連携に関すること。
- 教員を志望する学生の支援に関すること。
- その他教職課程及び講習に関すること。